

An aerial photograph of a vast, snow-covered mountain range. The terrain is rugged and textured with white snow and dark rock. Overlaid on the image are several white geometric lines: a large circle, a smaller dashed circle, and a straight line that is tangent to the top of the dashed circle. A small red dot is positioned at the top of the straight line, outside the dashed circle. The overall color palette is monochromatic, consisting of various shades of blue, white, and grey.

tangent
shiro takatani

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都 レパトリーの創造

高谷史郎 | タンジェント

2024年2月

9日 | 金 | 19:00 開演

10日 | 土 | 19:00 開演

11日 | 日・祝 | 14:00 開演

12日 | 月・休 | 14:00 開演

ロームシアター京都 サウスホール

総合ディレクション: 高谷史郎

プロジェクト・メンバー:

濱哲史、古舘健、白石晃一、細井美裕、南塚也

照明: 吉本有輝子

舞台監督: 大鹿展明

マネジメント: 高谷桜子

音楽: 坂本龍一

特別協力:

KAB America Inc. (空里香、アレック・フェルマン)

Kab Inc. (湯田麻衣)

February 2024

Fri, 9 | 19:00-

Sat, 10 | 19:00-

Sun, 11 | 14:00-

Mon, 12 | 14:00-

ROHM Theatre Kyoto, South Hall

Artistic Director: Shiro Takatani

Project Member: Satoshi Hama, Ken Furudate,

Koichi Shiraiishi, Miyu Hosoi, Takuya Minami

Lighting Design: Yukiko Yoshimoto

Stage Director: Nobuaki Oshika

Management: Yoko Takatani

Music: Ryuichi Sakamoto

Special thanks with deepest gratitude

for generous essential assistance:

KAB America Inc. (Norika Sora, Alec Fellman),

Kab Inc. (Mai Yuda)

ごあいさつ | Greetings

本日は、「レパトリーの創造」高谷史郎『タンジェント』にご来場いただき、誠にありがとうございます。

「レパトリーの創造」は、未永く上演される劇場のレパトリー演目を製作することを念頭に、2017年からロームシアター京都が継続しているプロジェクトです。このシリーズ第7作目として、ダムタイプのコアメンバーとして活躍し、パフォーマンスシーンに新たな可能性を開拓するメディア・アーティスト高谷史郎の新作を発表します。

タイトルの『タンジェント』(Tangent)は、初等幾何学における「接線」を意味しています。我々が丸い地球から太陽に対峙するとき、わずかに現れる接線。そのごく小さな点である人間。本作では、マクロ/ミクロのスケールを行き来しながら、物質や空間、音や光、色彩がそれとして知覚されるうえでの境界の在り方に着目しています。まさに、知覚の接線、タンジェントの境目をなぞる実験と言えます。ひいては、一般論として語られがちな社会規範・価値観の転換を促し、それら固定観念の輪郭を曖昧にすることで、新たな位相を切り開くことでしょう。

最後に、本公演の実現に際してご支援・ご協力賜りました関係各位に感謝を申し上げ、主催者の挨拶といたします。

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都の「レパトリーの創造」で新作パフォーマンスを制作してほしいという依頼を受けたとき、音楽は坂本龍一さんをお願いしたいと考えていました。とても悲しいことにその願いは叶いませんでしたが、坂本さんの最後のアルバム『12』を聴かせてもらったその時からずっとその音が心の中にあり、最後の最後まで考え続けた結果、坂本さんの大切な音源を今回の舞台作品に使わせていただくことになりました。協力して下さった空里香さん、アレック・フェルマンさん、湯田麻衣さんに心から感謝します。

「tangent」とは、「接線」や「触れる」というイメージで、夜明け直前と日没直後の太陽光線が地球に接している場所や、何かが「触れ合う」ことで音が発生するなど、その接線／接点の中の「見える／見えない」「聞こえる／聞こえない」グラデーションの部分にフォーカスを当てたいと考えました。太陽が昇る前の「青の時間」から、輪郭が見え、影が見え始めて、やがて太陽が水平線／地平線に沈み、誰がそこにいるのか見えなくなるまで——。小さな存在の我々が、地球という大きな球の上に立っていると感ずることができる、「青い時間」と空間について考え始めました。その、薄明りのグラデーションの中では、もののはっきり見えないことで、さまざまな存在について感ずることができるように思います。昼間は空によって守られ、その向こう側には真空の空間があるだけだということを意識しませんが、太陽光線が差し込む接点に立つと、その何も無い深遠な暗闇の空間と接して、光線が、その薄い大気のなかで乱反射して生まれる、青い空の天蓋を、そのグラデーションの中に見ることができるようになります。太陽の動きを分割し、無数の線を引き、そこに人の思考に合わせた、空間と時間を考えだし、安住していましたが、もっと違ったスケールで組み立て直さないといいないのでは無いかと考えています。

高谷史郎

高谷史郎 | Shiro Takatani

1984年から「ダムタイプ」の活動に参加。様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館で公演／展示を行う。2021年、坂本龍一＋高谷史郎『TIME』をオランダ・フェスティバルで世界初演。2024年3月-4月、東京・新国立劇場とロームシアター京都にて上演。

『Tangent』は、6月に欧州文化首都タルトゥ2024（エストニア）で上演予定。

プロジェクト・メンバー | Project Member

濱哲史 | Satoshi Hama

1985年生まれ。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー [IAMAS]、多摩美術大学情報デザイン学科を卒業。コンピュータプログラミングを駆使したサウンドや映像を制作。坂本龍一、ダムタイプ、池田亮司など多数のアーティストのインスタレーションやパフォーマンスの制作に参加する。

古館健 | Ken Furudate

1981年生まれ。京都在住。アーティスト／エンジニア／ミュージシャン。サインウェーブ、パルス、ドット、直線などプリミティブな素材の持つ特性を重ね合わせることで、複雑な現象を導き出すようなAVパフォーマンス、インスタレーションなどを制作。2014年よりアーティストコレクティブ「ダムタイプ」に参加。サウンドインスタレーション「Pulses/Grains/Phase/Moiré」にて、第22回文化庁メディア芸術祭大賞受賞(2019)。

白石晃一 | Koichi Shiraishi

1980年生まれ。金属造形やデジタルファブリケーションの技術を使い機械やコンピュータを組み込んだ彫刻を制作、自身でパフォーマンスを行ったり、観客参加型のイベントを仕掛け、公共空間を中心に発表を行う。ファブラボ北加賀屋(2013-)を共同設立。主なグループ展に「平成美術：うたかたと瓦礫デブリ1989-2019」(2021)がある。

細井美裕 | Miyu Hosoi

1993年生まれ。慶應義塾大学卒業。マルチチャンネル音響をもちいたサウンドインスタレーションや屋外インスタレーション、舞台公演、自身の声の多重録音を特徴とした作品制作を行う。これまでにNTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 無響室、山口情報芸術センター [YCAM]、東京芸術劇場コンサートホール、愛知県芸術劇場、長野県立美術館、国際音響学会AES、羽田空港などで作品を発表。

南琢也 | Takuya Minami

1967年生まれ。グラフィックデザイナー／アーティスト。Softpadメンバーとして、インスタレーション、パフォーマンス、サウンド、デザイン分野などを横断しながら、それぞれのメディアの境界線と接点を探る。池田亮司、坂本龍一、高谷史郎、ダムタイプのグラフィックデザインに携わるなど、アート・音楽に関連するデザインワークを行う。

照明デザイン | Lighting Design

吉本有輝子 | Yukiko Yoshimoto

京都にて、アトリエ劇研、Theatre E9 Kyotoの運営に携わりつつ、演劇、ダンス、オペラなどの照明デザインを手がける。2005年度京都市 芸術文化特別奨励者、2006年文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてパリ市立劇場で研修(1年間)、2017年維新派『アマハラ』にて第36回日本照明家協会賞舞台部門大賞を受賞。近年の主な参加作品：坂本龍一＋高谷史郎『TIME』、ダミアン・ジャレ＋名和晃平『Planet [wanderer]』、オペラ『イドメネオ』(演出：宮城聡)、チェルフィッチュ「宇宙船イン・ピトゥイーン号の窓」。

制作：ダムタイプオフィス／ロームシアター京都
企画製作：ロームシアター京都
共同製作：Kanuti Gildi SAAL、欧州文化首都タルトゥ 2024（エストニア）
主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化））| 独立行政法人日本芸術文化振興会

Management by Dumb Type Office, ROHM Theatre Kyoto
Produced by ROHM Theatre Kyoto
Co-produced by Kanuti Gildi SAAL
with the support by European Capital of Culture Tartu 2024 (Estonia)
Presented by ROHM Theatre Kyoto (Kyoto City Music Art Cultural
Promoting Foundation), Kyoto City
Supported by The Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan through the Japan Arts Council



アーティストへのインタビューをWEBマガジン「SPIN-OFF」にて
ご覧いただけます。

2021年にクリエイションに際して行った高谷史郎インタビュー
インタビュアー：田坂博子（東京都写真美術館学芸員）

高谷史郎ロングインタビュー

[前編] はこちら

[後編] はこちら



2024年1月に行ったプロジェクト・メンバー4名による鼎談
インタビュアー：島貫泰介（美術ライター／編集者）



ロームシアター京都

舞台：川村剛史、島村弘之、船越美紀、石田昌也、井上達也
照明：西岡宣明、元木浩一、柴田順、林いづみ、中村良隆、苗木絵菜、福山咲月
音響：豊田英介、西條智博、山川文彦
広報：儀三武桐子、山形ゆき、加藤陸
票券：日浦由美子、蒼森彩加

プログラム・ディレクター：小倉由佳子
制作：寺田貴美子、垣田みずき

衣装提供：株式会社 TARO HORIUCHI
映像機材協力：株式会社タケナカ
技術協力：堀尾寛太（株式会社ポノール・エクスベリメンツ）
CG制作協力：福岡北斗（株式会社ヒマワリスタジオ）

ROHM Theatre Kyoto

Stage: Takeshi Kawamura, Hiroyuki Shimamura, Miki Funakoshi,
Masaya Ishida, Tatsuya Inoue
Lighting: Noriaki Nishioka, Koichi Motoki, Jun Shibata, Idumi Hayashi,
Yoshitaka Nakamura, Ena Naeki, Satsuki Fukuyama
Sound: Eisuke Toyoda, Tomohiro Saijyo, Fumihiko Yamakawa
Public Relations: Kiriko Gisabu, Yuki Yamagata, Riku Kato
Ticket: Yumiko Hiura, Ayaka Aomori

Program Director: Yukako Ogura
Production Coordinator: Kimiko Terada, Mizuki Kakita

Wardrobe: TARO HORIUCHI Inc.
Video Equipment: TAKENAKA Co Ltd
Technical Support: Kanta Horio [Ponoor Experiments inc.]
CG production cooperation: Hokuto Fukuoka [Himawari Studio Co., Ltd]

編集・発行：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
〒606-8342 京都市左京区岡崎巖勝寺町13
TEL.075-771-6051（代表）075-746-3201（チケットカウンター）
FAX.075-746-3366
デザイン：南塚也
印刷：株式会社サンエムカラー
発行日：2024年2月9日
禁無断転載 © ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

Edited and Published by ROHM Theatre Kyoto
13 Okazakisaishoji-cho, Sakyo-ku, Kyoto City 606-8342 Japan
TEL: +81(0)75-771-6051 FAX: +81(0)75-746-3366
Design: Takuya Minami
Printing: SunM color co., Ltd.
Published on 9 February 2024
All rights are reserved by
ROHM Theatre Kyoto (Kyoto City music art cultural Promoting Foundation)

